

中間評価を踏まえた重点取組について（案）

資料 4

和

朝食を
食べる

朝食に関する指標は、22指標のうち、6指標と多くを占めており、中間評価で、指標となっている全ての世代（こども・20～30代の若い世代）について、ベースライン値から悪化していた。朝食を摂取する習慣は、栄養バランスのとれた食生活や、よく噛んで食べるなど健康的な食べ方の実践につながることから、中間評価の結果を踏まえ、重点的に取り組むこととする。

輪

みんなで
食べる

輪食を実践している人の割合は、ベースライン値から悪化し、特に70歳以上が低く、男性49.7%、女性60.7%と目標値の80%から大きく乖離している状況である。

輪食は、本計画の基本方針の一つであるとともに、本市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」の中でも、あらゆる機会を捉え、「輪食」についての理解と啓発を図るとしていることから、今後、重点的に取り組むこととする。

国産

ひろしま産
を食べる

ひろしまそだちを購入したことがある世帯の割合は、59.9%とベースライン値から悪化している。豊かな心を育むとともに、広島への愛着を深めるため、地産地消や食文化の伝承を進めるとしていることから、重点的に取り組むこととする。

★情報提供の充実★

★環境整備の推進★